Education first !!

久留米大学医学部
医学教育研究センター
Center for the Study of Medical Education (CSME)

久留米大学医学部医学教育研究センター　ニュースレター　第四号　　2015 年 8 月号

日本医学教育学会大会（新潟）

平成27年7月24～25日に新潟は朱鷺メッセにて、第47回日本医学教育学会大会が開催されました。今年のテーマは「不易流行 －日本の医療を支える人材育成としての医学教育－」でした。企画セッションでは、医学教育分野別認証評価、医学部のコンピテンシー、目新しい分野として、医学生が学ぶべき他者理解と自己理解、行動科学などをテーマに様々な話題がありました。特に、分野別認証評価については、各大学とも気になるテーマであったと思います。また一般講演では、最近のキーワードであるアクティブ・ラーニングに関する話題も多く、各大学の取り組みが紹介されていました。巻内記事の「医学生シムリンピック」もご覧ください。

医学教育研究センターを楽しむためのヒント

まずは、医学教育研究センターについて知ろう！（その４）

Q: 医学教育研究センターのピンクのカーテンはなんですか？

A: 禁断のハイテク領域です。稀にスタッフ（主に柏木）が中に籠って作業しています。

Q: 医学教育研究センターの鉄の扉はなんとかなりませんか？

A: 鉄の扉であるがゆえに、磁石で色々貼り付けられます。現在も貼り付け中。

医学教育研究センターは教育一号館の６階にあります（旧医学教育学）。大学生活に関すること、学業に関すること、留学やボランティア、部活に関すること。大学に関する悩みがあれば、どんなことでも相談に乗ります。いつでもお越しください。「手薬煉を引いて」お待ちしています。

- スタッフ一同

IFMSA-Japanの活動（今月の学生の声より）

今号の特集

- 今月の学生の声
- 今月の医学時事
- 2025年問題
- 医学生シムリンピック

今月の学生の声

医学部医学科３年　勝見　英徳

IFMSA-Japan

私はIFMSA-Japanの公衆衛生に関する委員会（Standing Committee On Public Health：SCOPH）の一員として“Better Health, Better World・みんながより健康になれは、世界はもっと輝く”をモットーに現在活動しています。

まずIFMSA？SCOPH？何それ？と思われたそこのあなた！International Federation of Medical Students' Associationsの略です。IFMSAは、第2次世界大戦後の1951年にヨーロッパで設立され、本部をフランスの世界医師会内に置いています。WHO、WMAによって医学生を代表する国際フォーラムとして認められ、ECOSOCの会員資格をも持つ、非営利・非政治の国際NGOです。2014年3月時点で、116の国と地域から123団体が加盟し、120万人以上の医学生を代表しています。

IFMSAには、臨床交換留学、基礎研究交換留学、公衆衛生、性と生殖・AIDS、人権と平和、医学教育の6つの常設委員会があり、世界各国で様々なプロジェクトやワークショップを運営しています。医学雑誌THE LANCETでは、国際保健教育への取り組みが論文の中で大きく紹介され、論説でも触れられています。この団体との出会いはちょうど一年前…２０１４年の６月です。あの日から今まで国際保健とヘルスプロモーションを中心に活動しています。

国際保健での活動はインドのコルカタにあるIIMC(Institute For Indian Mother & Child)というNGOが提携先で、年に二回春夏に派遣を送りフィールドワークをしています。Asia Community Health Project(以下ACHP)というプロジェクトで医療・教育・経済の多方面から人の健康について考え、勉強会・講演会、写真展というカタチで実践しています。このACHPでの経験や出会いは今後の医療に携わるうえで頭でっかちにならない思考を持てるようになると思います。

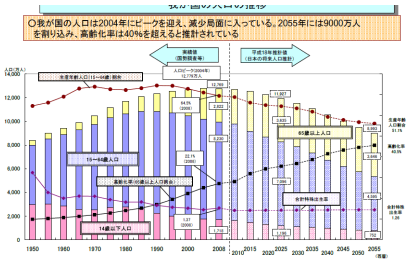
例えば昨年東京で“国際保健×地域医療”というテーマでイベントを企画しました。ここでは途上国と日本の医療は一見違うように見えるかもしれないけれど沢山の共通点があるということを考えるきっかけになったと思います。“Think Globally, Act Locally” を体現するイベントで100人近くの参加者にImpactを与えることが出来ました。

今月の医学時事

現在の日本は少子化に伴って、年々人口が減り続けています。現在よりもさらに超高齢化に進んで行きます。10年後の日本はどのような社会になっているのでしょう。詳しくは、巻内の2025年問題をご覧ください。

（参考）高齢化の状況（内閣府）

http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2013/zenbun/pdf/1s1s.pdf



厚生労働省 –政策レポートより-
http://www.mhlw.go.jp/seisaku/2009/09/03.html

医学教育研究センターのニュースレターに記事を投稿したいと言う方は、是非ご連絡をください。教員、学生問いません。教育に関する事、学校生活に関すること、ボランティア活動に関する事、大学に対する要望など、受け付けております。

医学教育研究センター

次にヘルスプロモーションに関しての活動は多岐にわたります。病気に関して語れる医師は多いですが健康についてしっかりと語れる医師は果たして何人いるのでしょうか？Healthy Lifestyle Project(以下HLP)では知っているようでちゃんと知らない"食"、"運動"、"睡眠"、"メンタルヘルス"、など普段の生活と密接にかかわることに対して、より健康になるには何を実践すればよいのかを学び実践しています。つまり公衆衛生における予防医学を中心としたヘルスプロモーションを実践も交えて行います。

これまで東京と名古屋でしかイベントが行われてなかったのですが、6/6にはじめてここ福岡で開催することができました。テーマは"梅雨と栄養学"で久留米大学からも医学科、看護科から多数参加していただき、大成功に終わりました。梅雨の時期に多い食中毒、三大栄養素などのレクチャーや薬膳や中医学の知識を根底にした献立の調理実習で理解が深まったと思います。次の福岡でのイベントは11月を予定していますのでその際はぜひご参加ください。

最後に地方の大学ということもあり内に目を向けがちです。そんな中でも多くの学生にはじめの一歩に勇気を踏み出して外に出ていってほしいです。そうすれば周りの見え方は180度変わり、今まで出会ってこなかった人、経験、知識に出会えると思います。現に私はその出会いによって新たなステージへと進めたんだと思います。

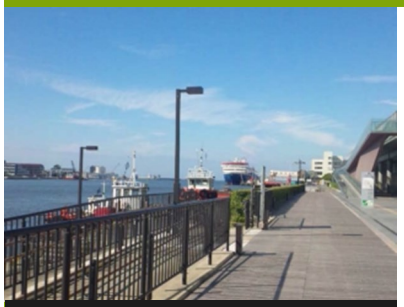


Fig. 1

医学生シムリンピック（新潟大会）

第47回日本医学教育学会が7月24日（金）、25日（土）、新潟の信濃川河畔（Fig.1）に立つ朱鷺メッセで開かれた。今年は卒業時コンピテンス（アウトカム）、moodleを利用したe-ラーニング、行動科学・社会学に裏付けられた医学教育など多彩なイベントだった。コミュニケーション教育ではDifficult news telling、慢性疾患患者への対応には多様な価値観を学生が備え持っている必要などが示された（抄録集S8-1より）。

Fig. 2

学生シンポ(6題)はとりわけ面白かった。地域枠学生のvividな体験発表は素晴らしく、長崎県の各地に8週間にわたってやってくる筑波大学や、全員が2週間の地域医療に参加する長崎大学の発表は印象に残った。新聞社のインタビューも受けていた。

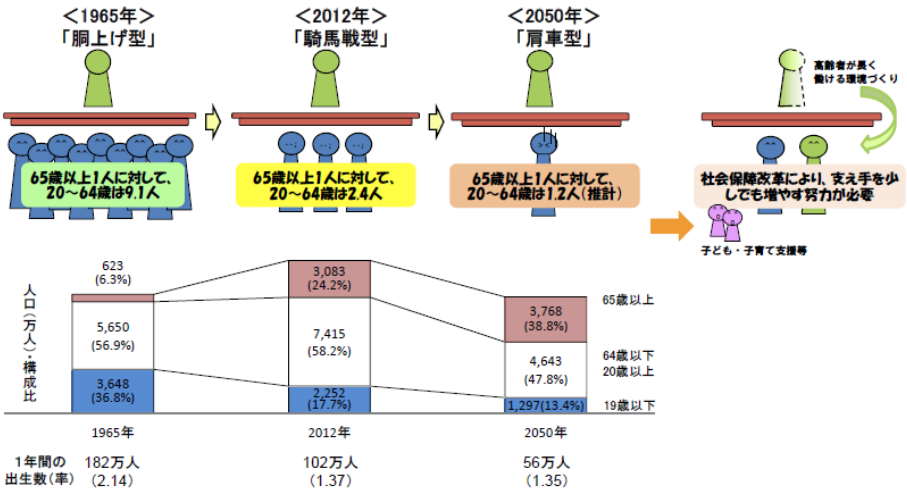
学生ポスターセッション（26題）では「部活と学生生活」、「医学教育に学生が参加するためのBRIDGE」、「女性医師のワークライフバランス」、「医療面接サークル活動」、などについて学生の視点で発表していた。教員にとってすごく参考になることが多かった。

会場で学友会総務委員長の大塚　貴君に遭った。全国医学生自治会連合の一般演題発表「医学教育に対する学生の参画の実態（O-7-3）」の応援にはるばるやってきたとのこと。

翌日の26日（日）は新潟大学で学生の診療技能オリンピック（シムリンピック）が開催された（Fig.2）。見学者多数で入場できなかったが、盛況だったらしい。来年は大阪医大（高槻市）で行われます。近いので久留米から沢山の学生さんと一緒に参加したいものです。

神代　龍吉

2025年問題



第二次世界大戦後にベビーブームが起こり、1947年～1949年は年間出生数が250万人を超え、「団塊の世代」と呼ばれる(3年間で806万人)。全員が2015年に高齢者(≧65歳)になり、2025年に後期高齢者(≧75歳)になる。少子高齢化は顕著になり、社会保障は胴上げ型や騎馬戦型から肩車型に変わり、医療・介護の費用や職員にいろいろな問題を生じる。

2025年に高齢者は3,657万人(31%)、後期高齢者は2,179万人(18%)に達し、首都圏・中京圏・近畿圏などの都市部で急速に高齢化が進む。年間死亡者は160万人(高齢者が140万人)になり、1,840万世帯(37%)が高齢者の夫婦か独居である(680万世帯が独居)。認知症の患者は700万人を超え(2012年は462万人)、介護職員が大幅に不足する(38万人)。

なお、2025年は昭和100年であり、官公庁や金融機関において年を昭和2桁で表示しているコンピューターは、昭和100年を昭和0年と認識して誤動作を起こす可能性がある。

安達　洋祐

超高齢化社会

（参考）厚生労働省「今後の高齢者人口の見通しについて」

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/dl/link1-1.pdf

医学教育研究センターは最先端の技術で学生と教員を繋げます。

編集スタッフより

こんにちは。編集担当の柏木です。医学教育研究センターのニュースレター第四号目です。学生さんが先生方の知らないところで様々なボランティア活動をされています。このニュースレターでできる限り、拾い上げて紹介して行きます。学生さんの活動を知って頂き応援して頂きたく思います。学生さんも夏休みですので、次号は10月になります。

水島新司著「ドカベン」より。ごら？

お問い合わせ先

当ニュースレターついてお気軽にお問い合わせください。 記事も募集しています。

久留米大学医学部 医学教育研究センター　編集担当：柏木　孝仁
〒830-0011 福岡県 久留米市旭町67 TEL: 0942-31-7764 FAX: 0942-31-7765
http://csme.asuscomm.com　E-MAIL: csme@med.kurume-u.ac.jp